

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム ハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	平成25年8月20日	評価結果市町村受理日	平成25年10月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170200485-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2170200485-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成25年9月5日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム ハートフルは、周りを自然に囲まれた環境にあり、四季折々の草花を楽しむことができます。利用者楽しく生活を送って頂けるよう、併設特養と一緒に外出したり、お互いの行事に参加したり、また、入所前に利用していたデイサービスやショートステイの友人に会いに行かれたり、施設内を自由に歩き来し、なじみの関係を大切にしています。食事は、畑で利用者と一緒に栽培した野菜を調理したり、季節を感じる献立を取り入れ(ほうば寿司・おはぎ・流し素麺など)職員と一緒に作り、天気の良い日は、中庭でのランチを楽しんでいます。今年度は、日常生活以外のイベントや行事を取り入れるよう、利用と一緒に企画しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体、特別養護老人ホーム(以下特養)と隣接している。開設以来、様々な取り組みを、特養と合同で行っている。法人グループ内の催事は、住民とのふれあいの場として、地元ボランティアも多数参加している。また、ユニークな利用者支援の一つに、家族の気持ちを書いた手紙を読み聞かせ、安眠に効果を上げている。職員と利用者は、地元の人が多く、馴染みの関係を大切にし、終末期では、本人・家族と話し合いを重ね、信頼を築きながら、最期まで、その人らしい暮らしができるように支援をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「福祉の原点は、サービスである。サービスに徹する。」ハートフルという名前の如く「努力する心いっぱい」「豊かな心いっぱい」「祈りの心いっぱい」それに感謝する心を持って生かされていることを充分心に止めて日々の業務に努める。この理念を玄関に掲示し常に意識し業務に入っている。	理念に基づく実践経過を、職員間で話し合い、共有している。地域との交流を深めながら、日々福祉の原点を意識し、利用者が、豊かな心で生活ができるように支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティアに訪問を依頼。利用者との交流・生活の活性化に向けて活動している。また、運営推進会議開催の際は民生委員に参加を呼びかけ活動の理解に努める。	マジックやフラダンス、琴演奏など、住民やボランティアが訪れている。法人内各施設の行事には、住民が大勢訪問している。小中学生の福祉体験で、窓ガラス拭きや草取りを手伝うなど、盛んに交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元福祉系の大学実習生の受け入れを実施。又、近隣地域の小・中・高等学校よりボランティア活動も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の意見や要望・事前のアンケート、利用者の意見などを取り入れながら、運営推進会議にて話し合いを実施している。	運営推進会議は、行政や民生委員、多くの家族が参加している。ホーム内で運動会の提案があり、実現している。避難訓練などの行事を兼ねた会議も開催している。	会議参加者の幅を広げ、多様なテーマを話し合う場として、活かせるように期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年5回の運営推進会議には、毎回の参加を頂いている。市担当者の参加により、運営に関わる様々な情報や他の施設の運営状況などの意見を参考に会議に生かしている。	行政の担当者は、運営推進会議に毎回参加し、入居条件や食中毒予防など、情報を交換したり、アドバイスをもらうなど、良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内は、日中、全室及び玄関には施錠せず、利用者は過ごしている。また、グループホーム会議において話し合いの場をもっている。	身体拘束委員会で、勉強会や報告会を通し、拘束ゼロに取り組んでいる。玄関や窓は施錠せず、自由な行動を見守っている。車椅子は移動の手段として使用し、通常は椅子で過ごしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットや制度の説明などを玄関に掲示、相談を受ける時は、パンフレットなどを使用して説明している。施設内部・外部研修の実地、参加を推奨。		

岐阜県 グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	情報の共有を目的に、内・外部研修を受け全体会議にて発表している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約をする前に事前面接を行い、家族・利用者の不安や要望を伺うと共に十分な説明を行い、理解納得を得、ご家族に同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に1回定期的に介護相談の訪問を受けている。 利用者と談笑され、帰る時に気づいたことや感想などをノートに記入してもらっている。	運営推進会議や面会時に、家族から気軽に意見を聴いている。運動不足解消の外出について意見があり、改善している。利用者の意見は、介護相談員からも聴いてもらい、サービス向上につなげている。	ホーム便りで、多様な情報が届けられるような、紙面の構成に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のGH会議に於いて職員の意見を取り入れ話し合いを持っている。また、年2回個人面接を実施。目標の反省とともに、今後のことや、悩みの相談に応じている。普段の業務時に於いても同様である。	毎月の職員会議や個人面談で、意見や要望を話し合っている。介助法の改善や利用者が好む音楽、ゲームなどを検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の目標に沿った部門目標・個人目標を設定し各職員の〈やる気〉を引き出す取組を行っている。また、年に1回改善提案の募集があり、各個人や共同にて提案をし、良い案に対しては奨励金制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員を育成する為に「介護職員スキルアップ表」を利用している。また、担当職員がOJTの実施も行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、他施設との意見交換をして交流をはかっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、利用者・家族がゆっくり話が出る様に傾聴に心掛けている。併設の居宅サービス用されている方は、サービス利用中にグループホーム職員が様子を伺ったり、他職員と情報共有の強化に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時は十分に話を伺い、入所まで間がある時は、電話などで様子を伺い相談や情報交換に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族のニーズに応じて、併設施設の相談員と連携をとっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや季節の食べ物、畑で収穫した野菜を使った食事、週に1度の外出(喫茶店・買い物)などを通じて、共に「当たり前の日常生活」を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時と年4回一筆箋にて、利用者の日常の様子をお知らせしている。また、利用者の自分では言いにくいことなどを代弁させて頂くこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所まえに利用していた、ショートステイやデイサービス利用者とのなじみの関係を継続して頂いている。自由に行き来し、開放的な雰囲気である。	知人や友人と携帯電話で連絡を取り合っている。併設のデイサービスやショートステイ利用者と交流できるよう支援している。喫茶店や飲食店などへは、家族と出かけ、馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされている方も、時折職員が声をかけてリビングへお誘いし、他利用者と一緒に過ごせるようはたらきかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(契約)終了の際は、「お近くへみえたら、またお立ち寄り下さい。」「困ったことがあったら、いつでも相談下さい。」と気軽に来所できるよう声をかけ配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時や入所にいたるまで、入所後もご家族との面会や電話連絡を実施し、想いや希望を把握するように努めている。また、暫定プランを作成する時にも希望を尊重するよう、情収集・共有に努めている。	入居時に、生活歴などの情報を、本人・家族から聞き取っている。さらに、日々の会話や表情からも思いを汲み取り、落ち着いた穏やかな暮らしができるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時には、特にご家族や御本人より生活歴や趣味嗜好等をじっくり伺い、記録しておりケアカンファレンスに役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所後2週間は、24時間の行動を把握するため、「生活経過記録」を残していく。また、日常の会話の中で、本人の要望や困りことを傾聴し今後の生活支援に繋げている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中で、御本人の思いや希望などを伺い、担当者・ご家族・ケアマネージャー・医師・看護師とも相談しながら、ご本人の意見を反映出来るよう個別に検討し介護計画の作成をしている。	担当職員が、ケアプランを下書きし、ケアマネージャーがまとめている。本人・家族や医療関係者の意見を計画に反映させている。毎月の職員会議で、モニタリングを行い、柔軟に見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングと評価を実施。GH会議にてカンファレンスを行い、職員全員で見直し変更を話し合い、次のケアプランに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の応援を受け、急な受診等に対応している。特養看護師も24時間体制にて対応し、部署間の枠を超えた関係を築いている。特別な外出では併設施設の運転手の応援を受けることがある。		

岐阜県 グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの活用により、マジックショー・歌謡ショーなどの講演会を開催。利用者に楽しんでいただけるような機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	「かかりつけ医」の連携の下、利用者全員の体調管理や体調不良時など、24時間体制で対応可能また、重症時には地元総合HPへの紹介、連絡の協力もあり。	入居前のかかりつけ医の継続と、協力医に変更は、本人・家族が選択している。月に2回、協力医の往診があり、総合病院や整形などへは、家族が受診している。医療情報は、家族と関係者で共有し、体調管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設する特養の看護師に情報や気づきを随時報告し、指示を仰いでいる。また、夜間は、看護師との連携により、急変時に十分対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院者が出た場合、管理者が1回/週面会に伺い家族より状態を聞き、また病院関係者への情報交換を行い、ご家族・利用者の相談等に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と24時間・365日の連絡体制を確立。また併設する特養看護師にも24時間連絡をとれる対応をした。ご家族には、夜間付き添い等協力を依頼し、常に協力医、看護師、家族、職員と連携しながら終末期ケア実行の体制を整えている。	契約時に重度化・終末期の説明を行い同意書を交わしている。時期が近づいた時は、主治医や家族と話し合いを重ね、終末期の支援体制を整えている。既に数例の看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でのAEDの操作・心肺蘇生訓練の定期開催を実施。また、運営推進会議を活用し、ご家族にも定期的に習得できる機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームの立地条件が山に囲まれていることから、土砂災害を想定した非難訓練を運営推進会議にて実施する。避難指示が発令された時は、ご家族にも家での待機を了承いただく。	年に2回、法人合同で災害訓練を行っている。また、別途に夜間想定した自主訓練や土砂災害を想定した訓練を実施している。避難誘導や連絡方法などを確認し、備蓄品も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの誘導などは、他の利用者に分からないように、なるべく利用者の近くに行き、さりげなく声かけをしている。	介助や話しかける際は、腰をかがめて同じ目線にするよう配慮をしている。トイレや入浴時などは、その人の気持ちを優先させ、さりげなく声をかけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに担当職員が決まっているため、本人の思いを聞き取り他職員にも共有し話し合いを持つことができる。その結果、利用者の希望をなるべく尊重できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングでは、利用者が思い思いの事をして過ごす。なじみの人に会いに行く人、調理をしたりテレビを見たり、新聞を読んだり歌を唄ったりと自由な時間を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、定期的に美容室を利用してカットや顔剃りをおこなう。入浴時には、洋服を自分で選んだり、職員によるアドバイスもおこなう。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常において、調理の準備や後片付けなどを職員と共に行っている。また、天気の良い日は庭に出て食事を摂って頂くなど、気分転換の工夫もしている。普段より食の進む方もみえる。	利用者の食べたい物を、日々聞き取っている。テーブル拭きやお盆拭き、盛り付けなどを職員と共に行っている。朝食は、パンとご飯を、自由に選択し、毎日の食事が楽しく、食欲が出るように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつ、夜間においても意識した水分補給を行っている。また、1回/月に併設特養の管理栄養士に献立表を見てもらい、アドバイスなどをもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝晩2回の口腔ケアを、職員見守りのもと実施している。義歯の方は、週1回(月曜日)に義歯洗浄剤につけて清潔を心がけている。年1回歯科医による歯科往診をも実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のない方、訴えない方に対して、も定時の誘導、落ち着かれない行動を察知して誘導を行うなど、気持ちの良い排泄支援を目指している。	個別のパターンに合わせた排泄を支援している。その結果、入居時より排泄の自立度が向上している。数名は、紙パンツから布パンツに変更ができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立や調理の工夫(繊維質を多く摂る)、水分摂取量の基準(1日1200ml)を目安に提供している。また、運動のため外への散歩や併設特養までの散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一応設定しているが、その日の気分や体調で変更や交替もある。また突発的なことに関してはこの限りではない。季節(夏場)などは、皮膚の状態に合わせて入浴の回数を増やしている。	週に2回の入浴を基本としている。皮膚がかゆい場合や入りたい希望には、柔軟に応じている。浴室またぎが困難な人は、隣接の特別養護老人ホームの大浴場を活用している。季節のゆず湯や菖蒲湯などがある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠のため、日中の活性化を支援、家事やアクティビティへの参加を促す。他に居室内温度や湿度の設定、パジャマなど夏場には毎日洗濯している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を職員が管理、医師の指示により、適切に配薬している。新しく処方された薬や形態変更においては、本人に随時説明している。(一部利用者)。職員間での情報共有に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店・買い物・外出などを希望される利用者の方には、定期的な外出支援をしている。また、利用者同士の交流が深まるような場を作り出す工夫をしている。(折り紙・ぬり絵・体操など)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設で行われる定期行事に参加し、利用者同士の交流、生活の活性化を行っている。ご家族との相談・協力を得ながら、外出支援を実践している。	前庭で外気に触れ、お茶タイムやおやつタイムなどを楽しんでいる。関連施設のイベントにも行き来している。普段行けない所へは、希望が叶うように、家族と協力して支援をしている。	



岐阜県 グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の利用者が、自分の小遣いを管理されており、施設内への販売や、外出の際の支払いなど自己にて行っている。また、買いたい物がある時は職員に希望を伝え、その店に出向く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「家に帰りたい」なそ不安の訴えなどある時は、ご家族に電話をし声を聞いて安心してもらえるよう配慮している。また、家族からも了承を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた環境で、四季の移り変わりを身体で感じ暮らすことができる。朝は、鳥の声で目が覚め、風が吹いたり雨が降ったりと利用者の五感に刺激を与えてくれるリビングからの眺めは、楽しみのひとつである。	利用者が、何処でもくつろげるような、広い空間である。廊下の隅のソファーに座りながら、外の景色が見わたせる。リビングは天井が高く、要所に、季節の花や手芸品、利用者の手作りの飾り、気持ちのよい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内には、ソファーや椅子が、点在しており、自分の好きな時に、気の合う仲間と自由に過ごして頂いている。また、一人になりたい時は、居室で過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所された方には、家で使用していた愛用の身の回り品を持参していただいている。本人が落ち着ける空間を心掛けている。	表札は名前が大きく、見やすい位置に貼ってある。馴染みのタンスや洋服かけなどを、使いやすく配置し、全体の間取りは、家族と一緒に、落ち着けるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋がわからなくなった方のために居室ドア、入り口に表札を付れたり、トイレには「トイレ」と大きな文字で表記している。		